

出張美術講座 「屏風の鑑賞」

静岡県立美術館の学芸員の先生にお越しいただき、屏風の鑑賞を行いました。
レプリカの屏風3点を前にして、大きさや色違い、題材に興味津々。

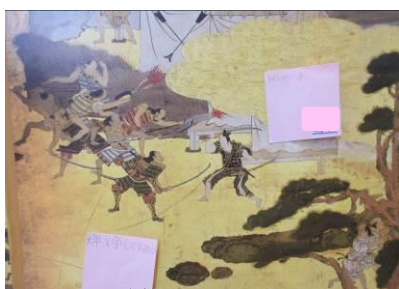


屏風は日本独自の文化で、部屋の仕切り（目隠し）や風よけに使われていたことや、畳んで持ち運びができること、自立して設置ができることなどを学びました。

伊藤若冲の「樹花鳥獣図屏風」は、動物の屏風と鳥の屏風がセットになっていて、たくさんの生き物の中に白象や鳳凰、麒麟など想像上の動物が描かれていることを発見しました。そして「ありがたい」屏風だということが分かりました。



「曾我物語図屏風」には、鎌倉時代に起きた曾我兄弟の仇討ちが物語になって描かれています。屏風の絵をよく見ながら、「曾我兄弟はどこにいる?」「これは何だろう?」と読み取ったことを付箋で書いて鑑賞をしました。屏風の右から左へと話が進んでいくことや、右の屏風は昼、左の屏風は夜というようにセットになって描かれていることが分かりました。



屏風の見方や特徴を知ることによってたくさんの発見があり、益々面白さや魅力に気付くことができたようです。
「自分たちで屏風を作ってみよう!」と楽しみにしています。

